

1 ポイント（特に工夫した項目に○ いくつでも）

教材教具の工夫	
1 実態に合っているか？	○
2 ねらいが明確か？	○
3 興味関心を生かしているか？	○
4 シンプルで誰でも再現可能か？	○
5 一目で動作をイメージできるか？	○
6 児童生徒も教師も使いやすいか？	○
7 実際の生活や他の場面で生かせるか？	▲

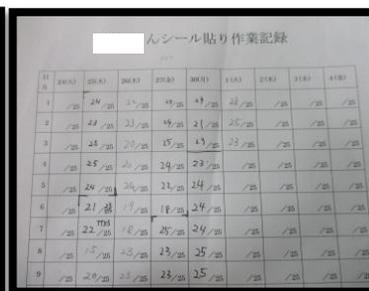
3 教材教具のねらい

- ・実習のシール貼りを正確に行うことができる。

作成者：山本歩 (高等部)

2 児童生徒の実態（個人またはグループ）

- ・手指の巧緻性は高いが、気持ちが高ぶってくるとシールの貼り間違えやズレが見られる。
- ・気持ちが不安定になると作業を中断して離席や退室などの行動がある。
- ・不安定のピークになると手を噛む、顔をたたくなど自傷行為が見られたり、泣いたり、激高したりなどの行動が見られる。
- ・気持ちを落ち着ける休憩時間やその際の休憩用のスペースを必要とする。



4 改善の経緯

(1) 前期現場実習時の様子

- ・シール貼りを昨年度より使用している補助具を使わず大きいパックにシールを貼ることができた。
- ・気持ちが高ぶり笑いが頻繁に出てくるようになると、シールを何枚も指に貼り付けて乱雑に貼ったり位置がずれてしまうことがある。シール自体は張り直し可能なため、検品時に本人が貼り直すようにしている。
- ・作業→報告→検品が終わると報告シールに赤いシールを貼る。(50枚ごとに休憩する)

(2) 後期現場実習時の様子

- ・シールは1枚ずつ小分けにした物を使い、1枚ずつ見ながら丁寧に貼ることができた。
- ・補助具は小さいパック専用の物に作り替え、より正確に貼るために台座の上にさらにシールサイズに穴が空いたカバーを付ける（張り方に慣れてきた段階でカバーは撤去した）
- ・休憩を100枚ごとに設定し、休憩を5分以内としてスムーズに作業室へ戻ることができた。
- ・少しミスは見られるものの貼り間違いも減り一人で貼ることもできた。

改善のポイント！！

- ・シールの貼り直しが難しいシールでも貼れるようにする。
- ・材料を丁寧に扱い、スピードだけでなく正確さも身につけるようになる。
- ・休憩が長くなると作業室へ戻れないことがあるため、短時間の休憩で作業に集中して取り組む。

今後の改善や使用について

- ・貼り方が身についたら補助具が無い状態でも正確に貼ることができるように考える。
- ・休憩のタイミングを周りと同じ時間にとることができるように徐々に休憩と作業量の割合を変更していく。